

第3節 中学3年生

平和と国際理解 I

一人と地域と歴史の繋がりから平和を考える一

中村明彦・今村敦司
原順子・中野和之
岡村明

【抄録】 中学3年では平和を考える事を主体に取り組み、地域の人の考えや歴史と戦争を確認することから始まった。また、国際理解の面からそれぞれの国の戦争に対する相手国への考えを確認した。平和に関する多方面からの事前学習を基に、広島へのフィールドワークへと後半の取り組みの主体が変化した。グループワークでの取り組みでは、中学2年生とは違った各グループ内でのコミュニケーション能力に刺激が加わった展開となった。

【キーワード】 平和 戦争 原爆 広島 グループ学習 国際理解 歴史学習 平和のリボン

I. 学年テーマと目標

学年のテーマの「平和と国際理解」に加え、「人と地域と歴史の繋がりから平和を考える」をサブテーマに設定した。歴史の中の紛争と和平に関する理解を深め、その状況を理解させること、戦争における被害者と加害者の立場をフィールドワークを通して理解し、平和への考えをまとめる。また、現代社会における戦争の脅威と異文化に対する理解を国際的な視野で考えることを期待した。

II. 学習方法と指導体制

- 戦争を体験された方からの証言を聞くことで戦争を間接経験し、自分の考えをまとめられるようにさせる。
(名古屋空襲証言者の話・被爆体験者の方の話)
- 広島研究旅行に向けての事前学習、当日のフィールドワーク、事後のまとめ
(文献調査を土台に、人との交流に重点を置き地域や歴史を体験学習)
- グループ学習の中から集団における協調性を養う
- 小グループ指導教官制として、担当した生徒の学年末通知票にコメント評価として評価をだす。

III. 学習の過程

	授業内容
1回	オリエンテーション
2回	授業参観「スクラップノートから考えたこと」発表
3回	杉原千畝についての学習、歴史学習

4回	太平洋戦争についての歴史学習・アメリカの立場から戦争を考える
5回	名古屋空襲体験者の話を聞く
6回	研究グループ結成・研究テーマ設定
7回	研究旅行グループでFW先の選定・事前学習
8回	研究旅行グループでFWアポ取り・事前学習
9回	FW依頼状書き、質問事項の確認
10回	事前学習の発表会
11回	広島研究旅行
12回	研究集録の原稿書き
13回	発表準備
14回	研究成果発表会授業参観

IV. 学習内容

1. 春休み課題発表

中学2年の春休みの課題として「スクラップブック作り」を題材にした。学年テーマである「平和と国際理解」に関する新聞記事や雑誌記事など、国内外で世界のニュースも含めて身近な資料を集めてスクラップブックに貼り付け、印象に残った言葉や感想を書き留めさせた。

第2回の総合人間科において「スクラップブックから考えたこと」という表題で課題発表を行った。当日は保護者授業参観と併せて実施した。この発表では、自分たちが今生活している現代において、平和と国際理解に関する事例が沢山取り上げられ、自分たちの考えを述べる事ができた。

2. 杉原千畝記念館訪問にむけて。

地域の歴史に触れるという取り組みの一つとして、遠足の行事と総合人間科の行事を重ねた。リトルワールド見学に加え、岐阜県加茂郡八百津にある杉原千畝記念館見学と講演を実施した。事前学習においては、杉原千畝に関するプリントの作成とビデオ鑑賞を行った。歴史的事実とその背景を知ることで、自分の考えをまとめさせた。

3. 明治から昭和における日本と世界

ビデオ「映像の世紀」を観て、歴史の中での日本と諸外国との繋がり確かめる学習をした。明治時代「極東の小国」と呼ばれていた日本とロシアや韓国との繋がりや大正時代のイギリス・ロシア・台湾との繋がり、そして昭和に入って満州国・中国・インドそしてアメリカとの繋がりを実証に基づき確認することができた。特に歴史の中でどのように戦争が始まったのかを再確認することができた。

4. 太平洋戦争についての歴史学習

核爆弾投下後の広島と投下したアメリカの立場を知るためと歴史的事実とその背景を知るための取り組みの第2弾として学習した。ビデオ「核の時代に生きる人間の記録」を鑑賞した。原子爆弾投下の事実とその背景・被爆者の体験談を確認した。また、アメリカ人の原爆に対する考え方を確認することによって立場の違いで考え方の異なることを学習した。特に、ビデオの中の『原爆は悲惨でしたが、必要だったのです』というアメリカ人のコメントには生徒の反応が多様であった。

5. 名古屋空襲体験者の話を聞く

講演者；斉藤孝

(「戦争と平和の資料館；ピースあいち」役員)

講演概要

- (1)戦時中の市民の暮らし
食糧について、情報について
- (2)斉藤氏自身の中学生時代
遊び、学徒動員、敗戦について
- (3)愛知県下の空襲について
- (4)歴史を再考
戦争を起こした理由
今の戦争について

6. 広島研究旅行概要

(1)目的

様々な立場の人の「平和と国際理解」への想いを知り、他の人との話し合いを通して「平和と国際理解」についての自分なりの考えを持つ。班行動、集団行動、グループでの話し合いを通して、自分の役割の重さと他への協力の大切さを知る。

美しい自然に触れ、自然への感謝とものをつくる喜びを味わう。

(2)生徒が決めた目標

- ・過去から学び、未来を考えよう。
- ・クラス男女関係なく笑顔を共有しよう。
- ・ものごとを様々な方向から考える力を身に付けよう。
- ・積極的に行事に参加する意志を持とう。

(3)方法

証言者の方の話聞かせたり、毒ガス資料館関係者の話を聞かせ、原爆や戦争の恐ろしさや平和の尊さについて自分なりの考えをまとめるきっかけとさせる。

徹底した班行動やフィールドワークの実行、話し合い活動をさせることにより、コミュニケーション能力を向上させ、協力と自分の責任について実感する場とする。

希望別者別体験プログラムに参加し、昼食を作ったり、みかんの収穫体験をすることにより、自然やものの大切さや自分でもものを作る喜びを感じさせる。

(4)関係人員

- ・引率教員 藤田 岡村 今村 中村 原 中野
佐藤 鈴木久 (山本君介助) 8名
- ・生徒 A組41名 (男21名 女20名)
B組40名 (男20名 女20名) 81名

(5)宿泊場所

- ・11月8日(水)〔広島〕
世羅別館 広島県広島市中区三川町4-20
TEL 082-248-2251
- ・11月9日(木)〔大久野島〕
休暇村大久野島 広島県竹原市忠海町5476-4
TEL 08462-6-0321



(6)旅行行程

日	行 程	食 事
11月8日 木	<p>(7:30 J R名古屋駅中央コンコース新幹線券売機前集合) のぞみ3号 貸し切りバス 宮島航路船 徒歩 昼食 徒歩 名古屋———広島———宮島口———宮島———鳥居屋——— 7:59 10:20 10:45 11:35 11:50 12:00 12:05</p> <p>自由散策 宮島航路船 貸し切りバス (平和セレモニー) (集合写真) 厳島神社———宮島———宮島口———平和の子の像前・慰霊碑 14:00 14:10 14:25 15:10</p> <p>(基本班別見学) 貸し切りバス 平和記念資料館———旅館 16:50 17:00</p> <p>(17:30夕食 18:30講話 20:30入浴 22:30消灯)</p>	<p>昼食</p> <p>夕食 世羅別館 証言者の 方と共に</p>
11月9日 金	<p>(7:00起床 7:30朝食 9:00出発) (FW班別グループ行動) 貸し切りバス 休暇村専用船 旅館———フィールドワーク———旅館(荷物受け取り)———忠海———大久野島 9:00 13:20 13:40 14:45 15:10 15:22</p> <p>(15:35毒ガス資料館見学・講話 17:00入館 18:00夕食 19:00キャンプファイヤー等 21:00入浴 22:30消灯)</p>	<p>朝食 世羅別館 昼食 班別自由 夕食 休暇村</p>
11月10日 土	<p>(6:30起床 7:00朝食) 大三島フェリー 貸し切りバス 休暇村———大久野島———大三島盛港———各体験場所 9:20 9:35 9:42 9:55 10:30-11:00頃</p> <p>(しまなみ体験活動グループ別) 貸し切りバス のぞみ32号 大三島(みかん菓子、みかん狩り、みかん餅)———福山———名古屋 伯方島(魚開き体験、たこ釜飯) 14:40 15:25 17:23 17:30</p> <p>到着後解散</p>	<p>朝食 休暇村</p> <p>昼食 体験G別</p>

(7)広島フィールドワーク一覧

班 番	テーマ	訪問先
1 班	<p>原爆のその後と未来 原爆が落ちてから60年以上が過ぎ、原爆を原爆を体験した人が亡くなっていく中で、国がそのような人たちにどう対応していったのか、原爆の恐怖を未来にどのように伝えていけばいいか興味を持った。</p>	<p>○広島原爆被害者団体協議会 広島広和会館 住 所；広島市中区大手町3-13-25 T E L；082-244-7226</p>
2 班	<p>戦争における救護と復興 被爆後の国の対応や、市民のとった行動について知り、大変さを学ぶ。</p>	<p>○平和記念資料館 住 所；広島市中区中島町1番2号 T E L；082-241-4004</p>
3 班	<p>広島に原爆が落ちてからの復興 現状の広島まで回復するには、復興という厳しい道のりがあったためであり、その苦勞というのは何も言いあらわす事のできないものと想像する</p>	<p>○広島大学平和科学研究センター 住 所；広島市中区東千田町1-1-89 T E L；082-542-6975</p>

班 番	テーマ	訪問先
4 班	戦時中の障害者の暮らし～非国民と呼ばれた人たち 戦時中、障害者の暮らしから、戦争の悲惨さを知り、共生についても考える	○ピースヒロシマ障害者の会 (代表；はらみちを氏) 住 所；広島市東区牛田旭2-40 T E L；082-228-0434
5 班	放射線が人に及ぼす影響 原爆投下後に、広島市内に入った人も原爆病になってしまったと知りその影響をもっと知りたいと思ったから。	○広島大学原爆放射線医科学研究所 住 所；広島市南区霞1丁目2番3号 T E L；082-257-5875
6 班	外国人からみた原爆投下 事前学習で観た映画をみて、もっと深くまで聞きたいと思ったから。原爆投下について、色々な立場(外国)から見てみる。	○広島留学生会館 住 所；広島市南区西荒神町1番1号 T E L；082-568-5931
7 班	原爆投下とその影響を受けた人々 人々に大きな影響を与えた原爆ができた経緯とその威力について知りたいとおもったから。また、原爆投下された直後にヒロシマの人々のために働いた人からお話を聞いたら当時の様子を知ることができるとおもったから。	○広島平和研究所 住 所；広島市中区大手町4-1-1 T E L；082-544-7570
8 班	終戦後の復興と特産物について 平和だからこそ特産物がある。特産物は広島が原爆から立ち直り、平和な暮らしに戻れた象徴である。会社の創始者にインタビュー	○株式会社 にしき堂 住 所；広島市東区光町1丁目13番23号 T E L；082-262-3131
9 班	原爆が子どもの発育に与えた影響 原爆投下以後も苦しんでいる子どもたちがいると知ったから。	○放射線影響研究所 住 所；広島市南区比治山公園5-2 T E L；082-261-3131
10 班	原爆症と医療 原爆症の本質について聞き、それに加え当時の状況について聞いてみたいことがあった。	○広島赤十字原爆病院 住 所；広島市中区千田1-9-6 T E L；082-241-3111
11 班	放射線が人体に与える影響 放射線の被害について知る(原爆、核実験など)	○放射線影響研究所 住 所；広島市南区比治山公園5-2 T E L；082-261-3131
12 班	現代につながる戦争 「現代につながる戦争」をしらべることによって、現代につながる人、現代につながる地域、そして、主に現代につながる平和を知る。	○海上自衛隊呉地方総監部 住 所；呉市幸町8-1 T E L；0823-22-5511
13 班	広島復興について 広島復興にかけてきた人々の思いを知る	○原爆被害者団体協議会 住 所；広島市中区大手町3丁目13-25 T E L；082-241-7226
14 班	外国人の戦争、原爆についての考え 今日本にいる外国の人たちが、どのような思いで広島に住み、どのような考えを戦争に対して持っているのかを知りたい	○広島インターナショナルスクール 住 所；広島市安佐北区倉掛3-49-1 T E L；082-843-4111

(7)平和宣言文

今から62年前、私達の国『日本』は、世界を相手に戦争をしていました。国民は国を信じ、ずっと闘いつづけました。その結果が『原子爆弾』—『原子爆弾』は町を焼き尽くし、全てを無にしました。苦しい中でもあったであろう夢や希望も全てなくなりました。そんな『原子爆弾』を正義として見てはいけません。しかし、アメリカは62年経った今でも、『米兵300万の命が助かったのだから、広島・長崎はしょうがなかった』とする世論が多く、未だに公式に謝罪していません。でも、本当にしょうがなかったのでしょうか？

なぜ原子爆弾が投下されたのでしょうか？なぜ、罪の無い人々が死ななければならなかったのでしょうか？何も得られないことを分かっているはずなのに、なぜ戦争をするのでしょうか？平和とは一体なんなのでしょうか？人間が栄える限り、争い事はなくなるのでしょうか？

当たり前にある日々が失われたいという保証はこの地球上にはないのです。私たちに出来ることは、『お互いを理解し、信じあう努力をする』などの身近な『平和』から考えてみることはないでしょうか。生命をかけが

えないものとして大切に守っていき、『平和』の輪を広げていけたら、世界に戦争・紛争・人種差別などはなくなり、『平和』になるのかもしれませんが。

第二次世界大戦で受けた人の心の傷を忘れず、日本という国をよりよい国とするために、最大限の努力をしていくことを誓います。

2007年 11月 8日 (木) 15時

原爆の子の像の前にて

研究旅行実行委員会

7. 成果と課題

歴史の中でどのように戦争が始まり、集結して行ったのかを独立した出来事ではなく、現代に繋がっている現状をフィールドワークで確かめることができた。生徒自身の考える「平和」についてまとめることができた。課題としては、国際理解に深く進展させるプログラムではなく、高校2年生での導入段階として位置できたのではないかと考える。

(文責；中村 明彦)

*補足資料 (平和と国際理解 アンケート集計結果)

2007年度 中学3年 平和と国際理解 アンケート集計結果

	とっても思う	わりとまあ	あまりない	全くない
(1) 自分の身近に異なる国の人々との交流がある。	11%	21%	46%	20%

(2) (1)で「ある」と答えた人の具体的な国名

中国 アメリカ スリランカ イギリス フィリピン
オーストラリア ブラジル カナダ トルコ ニューゼaland
北朝鮮 韓国 ドイツ

	とっても思う	わりとまあ	あまりない	全くない
(3) 世界の異なる文化を持つ人々と交流したいと思う。	20%	64%	13%	1%
(4) 自分の身近に異なる国の事について知る機会がある。	10%	33%	45%	11%

(5) (4)で「ある」と答えた人の具体的なその機会。

親戚 人の話 本 英会話の先生 ボーイスカウト ニュース
ホームステイ 海外演奏旅行 インターネット 授業 新聞
施設の訪問 周囲に住んでいる外国人との交流

	とっても思う	わりとまあ	あまりない	全くない
(6) 世界の異なる文化や国の事について知りたいと思う。	25%	65%	6%	1%
(7) 自分の身近で戦争体験を持つ人から話を聞く機会がある。	9%	25%	45%	19%

(8) (7)で「ある」と答えた人の具体的にどのような人であるか。

祖父母 手紙 親戚 被爆体験者の話を学校で聞く
祖父から海軍兵学校について

	とっても思う	わりと・まあ	あまりない	全くない
(9) 自分の身近で戦争体験を持つ人から話を聞きたいと思う。	25%	45%	21%	6%
(10) 家庭で世界情勢や世界平和について話し合ったことがある。	8%	21%	48%	23%
(11) 友達と世界情勢や世界平和について話し合ったことがある。	5%	10%	58%	24%
(12) 国際理解や世界平和を促進するために自分で何か行動をおこしたことがある。	0%	6%	46%	45%

(13) (12)で「ある」と答えた人は具体的にどのような行動かを書いてください。

ボランティア活動

	とっても思う	わりと・まあ	あまりない	全くない
(14) 国際理解や世界平和を促進するために自分で何かをおこしたいと思う。	10%	51%	29%	5%
(15) 世界の異なる文化を持つ人との交流や異なる文化を知ることで自分が豊かになると思う。	18%	58%	21%	1%
(16) 異なる文化や国が世界に多くあるのは良い事だと思う。	40%	49%	9%	0%
(17) 異なる文化や国が世界に多くあるのは世界の平和にとって良い事だと思う。	13%	35%	43%	9%
(18) 異なる文化や国が世界に多くある事が世界の紛争の原因だと思う。	21%	46%	25%	4%
(19) 平和とは、戦争のない事だと思う。	15%	45%	28%	11%
(20) 異なる文化や社会を知ることで、自分の国の文化や社会を知ることになると思う。	15%	65%	15%	3%
(21) 国際理解と世界平和のために私たちがしなければならないことは何だと思いますか。				

・しっかりと話し合い・協調性を持つ・お互いの国の理解・歴史を知る・過去の戦争を忘れない・人種差別等をなくすこと・相互理解・戦争体験を知る・偏見をなくす・異なる文化を理解する・現状把握・学習し交流・意見の主張と受諾・自分の国よく知ること

(22) 国際理解と世界平和の達成の為に、私たち日本人に欠けていることは何だと思いますか。

・自給自足できる力・他国との交流、理解・思いやり・積極さ・過去を知ること・国の理解・他国の文化・政治の理解・知識・欲が多すぎる・ボランティア精神・考えた行動・思っていることを口に出すこと・行動力・憲法第9条を守ること・個人の意志・無関心な人が多いところ・世界では戦争が起きているという自覚・金銭感覚

(23) 平和と国際理解について総合人間科で研究したテーマを自由に書いてください。

・何故戦争が起こるのか・戦争について・未来・歴史・宗教・人種・兵器・原爆・世界から見た日本・平和とは・他国との関係・戦争中の暮らし・現在の日本の状況・戦争の起こる原因・ホロコーストについて・航空機による外国との繋がり・隣国とのつきあい方